

令和3年度青森県協同農業普及事業外部評価委員会における評価結果及び改善策

【普及指導活動の体制】

内 容	評価結果	主な意見等	普及指導活動体制の改善策
普及指導活動の体制	A：5名 B：1名	1 普及指導の組織体制 ・新規就農者にはアドバイザーだけではなく、近隣の生産者を活用できる体制を構築していただきたい。(大平委員) ・近年、新規就農者が増加傾向にある中、自立した農業者が多数輩出されるよう、普及指導の役割が増している。今後も普及指導員の人員体制の維持・充実に努めていただきたい。(森委員)	・青森県協同農業普及事業の実施に関する方針に基づき、先進的な農業者や地域リーダー等との協働により新規就農者の育成を図るため、普及指導活動の体制づくりを進めていく。
		2 普及指導の人員の動向 ・多様化する農業の課題に対応した人材配置と育成を図っていただきたい。(吉仲委員) ・他県に比べて本県の普及指導員の減少率が大きい。国もみどり戦略など、農業に力を入れており、現場対応力の強化が求められている。また、全農やJAとの連携が取りづらくなってきているように感じる。(沼田次長) ・指導に時間が割かれることが予測される新規就農者が増加したことを考えると、大変厳しい指導の現場が想像される。その中で適正な人員の配置は必要である。(蒔苗委員)	・青森県協同農業普及事業の実施に関する方針や青森県「攻めの農業」推進基本方針に基づき、新たな課題に対応した普及指導活動を展開していくための体制づくりを進めていく。
		3 資質向上の取組状況 ・研修がバッテリーしないように、横のつながりを強化していただきたい。(大平委員)	・JA等関係機関との連携に努め、効果的かつ効率的な普及指導活動を展開していく。

評価区分 A：大いに評価できる B：概ね評価できる C：やや評価できる D：一部改善が必要 E：大幅な改善が必要

【主な普及指導計画】

○東青地域県民局地域農林水産部

課題名	評価結果	主な意見等	普及指導計画の改善策
農山漁村女性の意欲・能力を活かした起業活動の推進 (R1～3)	A：5名 B：1名	・指導対象の主体性があまり見受けられない。 (吉仲委員)	・現在もPRイベントへの参加や新規販売先の開拓など、売上アップに向けた自主的な活動ができている。計画終了後も主体的に取り組めるよう、引き続き組織リーダーや事務局を中心に指導を行う。
		・販売目標の実績、評価を数値化して意欲向上へつなげていただきたい。(大平委員)	・加工・販売目標や販売などの活動実績は、組織の会計担当者が整理しており、組織での定期的な打合せで検討するなど、メンバー内で共有している。今後も活動の定着・発展に向けて支援していく。
		・組織の収支は確保されているのか。また、販売先は確保されているのか。ネット販売やふるさと納税の返礼品への活用などを検討してはどうか。(沼田次長)	・加工品の商品化や販売促進、販売先の確保に向けて積極的に活動しており、販売先は確実に増加し、販売額も順調に伸びている。今後はネット販売やふるさと納税制度の活用についても検討していく。
		・将来的に普及指導員の指導が無くなっても、自分たちの力で事業を継続できるようになっていることを期待する。(沼田次長)	・現在もPRイベントへの参加や新規販売先の開拓など、売上アップに向けた自主的な活動ができている。計画終了後も主体的に取り組めるよう、引き続き組織リーダーや事務局を中心に指導を行う。
		・検証中の新たな集荷システムによる成功事例が、地域活性化に役立ち、更に他地域へも成功事例として情報提供されていくことに期待したい。(蒔苗委員)	・行政担当者以外にも、民間企業等をメンバーに加え、地域の力を活用した集荷システムづくりを進めており、今年度の実証結果を県内に広く発信していきたい。

評価区分 A：大いに評価できる B：概ね評価できる C：やや評価できる D：一部改善が必要 E：大幅な改善が必要

○中南地域県民局地域農林水産部

課題名	評価結果	主な意見等	普及指導計画の改善策
需要に応える「青天の霹靂」の生産と新品種の普及拡大 (R3～5)	A：5名 B：1名	<ul style="list-style-type: none"> 出荷基準達成率と収量を切り離して目標設定した方がわかりやすい。(吉仲委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 「青天の霹靂」の生産に当たっては、出荷基準の達成率が最も重要と捉えていることから、出荷基準達成率を目標として設定し、品質の向上に向けた指導を継続して行う。 今後は取組の重要度がより明確となるよう、わかりやすい記載に努める。
		<ul style="list-style-type: none"> 栽培技術の高位平準化に向けて、青天ナビの活用策と普及方法について、対応を明記していただきたい。(吉仲委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 刈取り適期の面的な把握ができるなどの情報を講習会や巡回指導時の説明資料に盛り込み、「青天ナビ」の活用方法を広く発信していく。 「青天ナビ」では、「青天の霹靂」の栽培に必要な基本情報を提供しているため、栽培に熟練すると使用頻度が低下する傾向がある。
		<ul style="list-style-type: none"> 青天ナビについて、JAからは単なる入力係になっているといわれている。JA指導員へも活用方法について指導し、効果的なシステム利用に努めていただきたい。(沼田次長) 	<ul style="list-style-type: none"> JA指導員に対し、「青天ナビ」操作研修などへの参加を誘導し、また、JA指導員とともに、出荷基準未達成者への指導を行うなど、操作方法と指導内容の情報共有を進めていく。
		<ul style="list-style-type: none"> 昨年度産の出荷基準未達成者へのアプローチが難しい中、出荷基準達成率が大幅に改善されたことは評価できる。(蒔苗委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ブランド米の競争が激化する中、「青天の霹靂」の一層の評価向上に向け、出荷基準の未達成者に対して、その原因を検討し、改善策を提示するなど、継続して支援していく。

評価区分 A：大いに評価できる B：概ね評価できる C：やや評価できる D：一部改善が必要 E：大幅な改善が必要

○三八地域県民局地域農林水産部

課題名	評価結果	主な意見等	普及指導計画の改善策
ながいも産地の維持に向けた担い手の育成 (R2~4)	A：4名 B：1名 C：1名	・ J Aとの役割分担が明確になっていないように見受けられる。(吉仲委員)	・ J Aは、若手農業者のリストアップや連絡・周知を担っている。
		・ アシストスーツの価格が下がれば、使用する人が増えるのではないか。(大平委員)	・ 今後も可能な限り低価格のアシストスーツ等省力化機械を紹介していく。
		・ 難しいかもしれないが、「ながいも栽培技術の高位平準化」についても、数値目標を設定した方が良いのではないか。また、個別課題に取り組んだ人が6% (3人) では少なすぎる。(沼田次長)	・ 県等のながいも共進会上位入賞者数を目標とする (現状は0)。 ・ これまでも個別課題の解決に向けて支援してきた。今後も関係機関と連携して支援していく。
		・ 若手の研修会等への出席率を高めるための対策が必要である。(沼田次長)	・ J Aからの連絡・周知を徹底するとともに、若手の関心のある研修内容や実施時期等について検討する。
		・ 冬期の若手研修会については、3月は春作業が忙しいので、2月に実施してはいかがか。(沼田次長)	・ 3月は種子選別の時期に合わせて研修会を開催しているが、複合経営も多いことから開催時期等は、J Aと検討する。
		・ 土壌診断の実施については、土壌分析を増やすための具体策を全農としても一緒に検討したい。(沼田次長)	・ これまでも全農・J Aとも連携して、農家に土壌診断のメリットと効果を説明してきた。今後も全農・J Aとともに具体策を検討していく。
		・ 省力化技術のメリット等を生産者にわかりやすく伝えていただくとともに、導入が円滑に進むような環境づくりにも努めていただきたい。(森委員)	・ 今後も省力化技術やその導入効果についてわかりやすく丁寧に説明するとともに、導入に対する支援を行う。
		・ 支援先農家数、割合が高くないことが残念。時間がかかることではあるだろうが、今後更にながいも若手研究会員たちの課題解決指導に力を注いでいただきたい。(蒔苗委員)	・ 全農・J A等と連携して若手農業者の出席率を高め、個別の課題解決に向けた指導を徹底していく。

評価区分 A：大いに評価できる B：概ね評価できる C：やや評価できる D：一部改善が必要 E：大幅な改善が必要

○西北地域県民局地域農林水産部

課題名	評価結果	主な意見等	普及指導計画の改善策
<p>中小規模稲作経営体 への高収益野菜導入 による複合経営の普及 (R3～5)</p>	<p>A：4名 B：2名</p>	<ul style="list-style-type: none"> 戦略に係る目標設定について、もう少し具体性がほしい。(吉仲委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 現在検討している戦略の具体的な内容や目標が決まり次第、普及計画の目標を修正する。
		<ul style="list-style-type: none"> 関係機関や実証は生産者の主体性を引き出す取組が必要である。(吉仲委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 農協は共同育苗や集出荷、講習会の開催、町は基盤整備の推進や生産者への現地検討会の周知等を行い、役割分担しながら連携し、複合経営の普及に努めている。 また、今年度、現地検討会に参加した生産者から、「周囲の生産者へ作付けを進めていくため、自分の地域で次年度普及展示ほの設置を希望する」などの意見が出され、波及効果がでてきている。 今後は、高収益野菜導入農家をグループ化し、主体性を持って活動するよう働きかけていく。
	<ul style="list-style-type: none"> 収穫する時期に合わせて、は種・定植を調整して取り組むように指導すれば、拡大できるのではないか。(大平委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ブロッコリーの新規作付者に対しては、安定して品質、収量が確保できる6月中旬～7月上旬収穫の作型で導入を進めている。 定植時期を調整することによって、収穫作業が分散され、作付面積を拡大できるよう指導する。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 品目を選定する際、JAの荷受け体制や販売先を確認して、品目選定したと書いていけば、目標設定としては更に評価できる。(沼田次長) 	<ul style="list-style-type: none"> 品目選定の際は、JAの荷受け体制や販売先に合わせたものを選定しているため、その旨を記載する。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 冬期間の研修会や講習会のほかに、重点指導すべき農家への個別指導を行えば、更に普及につながるのではないか。(沼田次長) 	<ul style="list-style-type: none"> 導入希望の農家へは、今後とも講習会と個別指導を合わせて実施する。 令和4年度は新規作付者に対し、農協と連携しながら重点的に指導助言を行う。 	

		<ul style="list-style-type: none"> 生産者に高収益性などについての研修会、先進農家の視察等により、米を基本としながらも、複合経営のメリットについて実感、理解をいただきながら、経営の安定に向け、引き続き取り組んで行くことを期待する。(森委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も現地検討会や栽培講習会、個別指導に加え、近隣で実践している農家の取組事例等を紹介しながら、複合経営の普及を図る。
		<ul style="list-style-type: none"> 今後、ブロッコリー生産が拡大していった場合、労働力不足が心配されることから、「農福連携」など他分野との連携など、新たな労働力確保の方策にも努めていただきたい。(森委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 収穫期の労働力不足が拡大のネックとなるため、「農福連携」などの他分野との連携を進め、地元で労働力を確保していけるよう取り組む。
		<ul style="list-style-type: none"> 各データ集計から収益性試算を示しており、理解されやすく良い指導である。(蒔苗委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 普及展示ほでの収益性や労働時間等のデータはセミナー等で周知し、高収益野菜導入を働きかけていく。
		<ul style="list-style-type: none"> 収穫時期の労働力不足は大きな課題である。今話題の「おてつたび」等の利用を来年度検討してはいかがか。(蒔苗委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 提案いただいた「おてつたび」の情報を収集するとともに、新たにブロッコリー栽培に取り組む農業者のグループを結成し、作業協力についても検討する。

評価区分 A：大いに評価できる B：概ね評価できる C：やや評価できる D：一部改善が必要 E：大幅な改善が必要

○上北地域県民局地域農林水産部

課題名	評価結果	主な意見等	普及指導計画の改善策
大豆の安定生産と省力技術の導入による収益性の向上 (R3～5)	A：5名 B：1名	<ul style="list-style-type: none"> 5ha未満の農家にも取り組める体制を作っていれば、少しずつでも収量アップにつながるのではないか。(大平委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 小面積の生産者も対象とした栽培講習会の開催等により、大豆生産者の生産技術向上を支援していく。
		<ul style="list-style-type: none"> 課題名が「大豆の安定生産と省力技術の導入による収益性の向上」となっているが、活動報告を見ても収益性の向上につながっているのかが判断できない。(沼田次長) 	<ul style="list-style-type: none"> 単収向上による収入の増加と、省力技術の導入による労働費の削減により、収益性の向上が図られると考えていることから、今後も単収の向上と省力技術の導入を支援していく。
		<ul style="list-style-type: none"> 大豆収量低下の原因が各経営体により異なることから、「大豆栽培技術改善等整理表」を基本に、きめ細かい個別支援をしていただきたい。収量がここ10年ほどでかなり減少しているが、担い手の高齢化、労働力不足など、生産の環境も大きく変化していることも要因と思われるので、対処療法ではなく、長期的な視点での安定生産に向けた取組を期待する。(森委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、大豆栽培技術改善策整理表に基づく個別支援を重点的に実施する。また、JA等関係機関と連携しながら、新たな担い手の確保や生産の組織化、労働力不足に対応したスマート農機の導入等、長期的な視点に立った取組も進めていく。
		<ul style="list-style-type: none"> 省力化技術の導入については、導入コスト等、導入の仕方なども工夫し、できる限り導入が促進されるよう支援していただきたい。(森委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 補助事業や低利資金の活用、共同利用や農作業受委託の実施等、指導対象の経営条件に合わせた導入を支援していく。
		<ul style="list-style-type: none"> JA十和田おいらせの野菜の土壌診断はよく知られていたが、地域の大規模大豆生産に広がっていなかったことは大変残念である。今後は、他作物の土壌診断についても、収量低下前の指導を検討していただきたい。(蒔苗委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 野菜については、土壌診断に基づく土づくりが定着しているが、水稲や畑作物についても、土壌診断の実施と診断結果に基づいた土づくりが拡大するよう栽培講習会等で働きかけていく。

評価区分 A：大いに評価できる B：概ね評価できる C：やや評価できる D：一部改善が必要 E：大幅な改善が必要

○下北地域県民局地域農林水産部

課題名	評価結果	主な意見等	普及指導計画の改善策
新規就農者による「夏秋いちご」の産地力強化 (R3～5)	A：5名 B：1名	・出荷できない物の加工品（ドライなど）を開発してはいかがか。（大平委員）	・これまでに冷凍した規格外品を原料としたサイダーやシロップなどが商品化されている。今後も引き続き加工品開発について支援していく。
		・新規就農者をターゲットにした取組は重要であり、継続して支援していくことが必要である。（沼田委員）	・今後も支援を継続し、新規就農者の育成・定着に向けた中長期的なサポート体制づくりに取り組んでいく。
		・目標設定や今後の取組が明確になっており、若手農業者のやる気を十分引き出している。（沼田委員）	・今後も農業革新支援専門員、関係機関及び農業経営士の意見・要望等を普及指導計画に反映させながら目標達成に向けて取組を進めていく。
		・新規就農者が多いので、経営面でのサポートにも配慮しながら、個々のケースに沿った指導・支援していただきたい。（森委員）	・市町村、農業委員会、JA及び農業普及振興室からなる「新規就農者サポートチーム」で、経営面についても検討しながら、新規就農者が個別に抱える問題や課題等に対して指導・支援していく。
		・夏秋いちごの地元での消費拡大、認知度向上に向け、「しもきたマルシェ」など地元関係者の連携、協力の推進についても支援していただきたい。（森委員）	・「しもきたマルシェの会」に加入している新規就農者もあり、地元関係者との連携・協力についても支援していく。
		・市場や加工先への視察研修は、生産意欲となり、成果に直結するものである。一度限りではなく、数年に一度の定期的な実施を検討していただきたい。（蒔苗委員）	・今後も先進地視察研修を実施することとしている。
		・月平均10回以上の相談に応じる2名の農業経営士とともに指導されて、新規就農者が100%定着となることを期待したい。（蒔苗委員）	・今後も引き続き農業経営士との連携及び情報共有を図りながら新規就農者の支援を行っていく。

評価区分 A：大いに評価できる B：概ね評価できる C：やや評価できる D：一部改善が必要 E：大幅な改善が必要